

九州国立博物館環境ボランティア

代表者	的場 康彦
所在地	〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4丁目7-2
設立年月日	2005年5月

【設立趣旨】

九州国立博物館（以下「九博」という。）は、自然との共生、市民との協同を目指す文化施設を基本として計画され、「モノ・人・環境に優しい」文化財の保存管理を目指して、IPM(総合的有害生物管理)による活動を建設中よりスタートさせました。この、IPM体制での文化財保存活動の一部に市民ボランティアの参加が計画実行され、これまで4ヵ年半の活動実績を積んできました。

【沿革】

2005年10月に開館した「九博」では、教育普及、イベント、サポート、館内案内、展示解説、資料整理など12の部会によって構成され、常時380名あまりのボランティアが活発に活動しています。その中に、「環境で文化財を守る」機能をサポートする環境部会があります。ボランティアは3ヵ年の任期制がとられており、2008年4月に第一期から第二期に引き継がれました。

【活動目的】

博物館におけるIPMには、学芸員、事務職員、警備、清掃職員や展示場監視員など、多くの関係者が携わります。環境ボランティアは、これらの博物館業務とは異なる「市民目線からの監視」を行います。文化財をとりまく館内環境に対して、市民の目で見守り、観察を続けることで、昨日と違う何かに気付き、違いの理由を探し、異常の早期発見・処置に繋げることを目的に活動を行っています。また、文化財にとってこうした見守る目と、しっかりとした清浄度の維持、そういった基本の積み重ねが重要であることを、市民のメッセージとして、家庭や地域社会に伝えることを期待されています。

【活動内容】

「九博」のIPMの根幹を成す、基本的な活動及び、第二期ボランティアの活動テーマである情報発信並びに、各種研究・研修事業への参画を行っています。

I. 基本的な活動

1. IPMウォッチング（文化財保存環境の監視）

文化財の展示環境保全に関

わる、虫・カビ・汚れ・温湿度変化・塵埃・臭気等様々な事象について、館内パトロールによる視察、記録、報告等の実施。【図1】



【図1】IPMウォッチング風景

2. IPMメンテナンス（文化財保存環境の清浄度維持）

文化財収蔵エリア周辺の清掃等

【図2】

3. IPMデータ収集・整理

展示場等来館者エリアでの、インジケーター（トラップ）の設置交換



【図2】収蔵庫前室兼通路メンテナンス風景



【図3】温湿度記録計記録紙交換風景

及び、毛髪式温湿度計の記録紙交換並びに、これらに付帯する諸作業【図3】

【図4】

4. IPM体制維持のための諸作業

展示ケース用調湿剤の設置・交換等

II. テーマ活動

第二期ボランティアのテ

ーマであるところの「市民によるミュージアムIPM活動に関する情報発信」を進める事項として、次の活動を行っています。

1. 文化財保存修復学会及び、文化財サポーターフォーラムにおける「ポスター発表」
2. 「市民協同型IPM活動に関する研究会」に関する、「発表の記録と資料」の編集【図5】（注1）

3. 広報誌「みどりの広報」

の企画・編集・広報（注2）

III. 各種研究・研修事業への参画

1. 「市民協同型IPM活動に関する研究会」への参加（注1）
2. 「市民と共にミュージアムIPM」-IPMボランティア育成プログラムの策定への参加（注3）

注1 平成19-20年度科学研究費補助金（基盤研究（C））

注2 九州国立博物館振興財団支援事業「ボランティアグループ活動支援制度」

注3 文化庁平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業



【図4】インジケーター【トラップ】組立風景



【図5】「市民協同型IPM活動に関する研究会」報告書校正風景

【活動上の課題と今後の展望】

館からの研修等による、文化財保護のための基礎知識や技術の付与並びに、諸先輩の試行錯誤から蓄えられた、ノウハウの活用によりこれまで活動を行ってきました。その活動内容は基礎的な事項に止まっており、未だ十分なものとはいえない状況にあります。

今後は、「市民目線での文化財保存環境の維持改善」への参加という基本を踏まえつつも、新しい知識技術の吸収或いは、自分たちも楽しめる新たな活動領域の発掘を行う中で、より効果的なボランティア活動を目指したいと考えています。